

Fruit Topics ~ 東海地方の果物の話題 ~

1. 果物ができるまで(生産)

(1) 開花から受粉

果物(果実)の多くは、花が咲いてめしべに花粉が受粉することにより、子房が発達してできるものです。果物の始まりは花だといえるのかもしれませんが。種類によっては、人間が花粉をめしべにつける必要があり、大変な労働力を必要とします。ミカンやイチジクは受粉することなく結実する「単為結果」という珍しいタイプの成長をする果実であり、種がないのが一般的です。

なお、花を作る準備は前年に既に始まっています。このことからミカンやカキでは果実が多い年には、この準備のための養分が不足し、翌年の花や実が少なくなる「隔年結果」を起こしてしまう傾向があります。

(2) 良質果実生産のための 摘果

果実が大きくなる時期に必要な作業として摘果があります。上で述べた隔年結果を防ぐ目的や、収穫する果実に栄養を行き渡らせ、良質な果実を生産するため、余分な果実を間引く作業です。



ミカンの花



モモの花



摘果ミカン(黄色)

(3) 果物を守る、そして収穫

果物は、人間だけでなく動物や鳥にとっても魅力的なものであり、栽培の過程では、それらの食害を防ぐ必要があります。また害虫や病気からも守らなければなりません。鳥獣よけの柵や多目的ネット、袋かけ、そして安全基準の範囲内の農薬散布も必要になります。このような過程を経て、ようやく待ち望んだ収穫を迎えます。

(4) 将来に向けて樹と向き合う せん定

収穫を終えた冬の間を中心に、栽培する上で理想的な樹形にするために、余分な枝を切るせん定が行われます。クリなどの低樹高・超低樹高栽培やナシなどの棚仕立てをはじめとして、作業性をよくしたり、安定して高品質果実が収穫できるように、多くのせん定技術が工夫されています。



鳥獣害防止柵



防鳥・防虫網



モモの袋かけ



クリのせん定(講習会)

2. 果物を食べるまで(流通、販売)

(1) 産地から市場へ

最近では、非破壊式の糖度センサを備えた選果施設を持っている産地が増えており、甘さのばらつきの少ない高品質の果物を大きさに別につめ、私たちが安定した品質の果物を購入できるようになっています。出荷された果物の多くは各地の市場で取引されます。



ミカンの選果施設



市場の様子

(2) 量販店・専門店

市場などを経由した果物は、主に量販店や専門店(フルーツショップ、八百屋さんなど)で購入できます。市場を経由していることから全国の果物が購入しやすいという特徴もあります。また、専門店には、専門の方がいるので、果物の食べ方などのアドバイスをもらうのもよいのではないのでしょうか。

(3) 直売施設・通信販売

それぞれの果物の旬の時期に、産地に行くと地元産の果物を見つけることができます。最近ではJAが運営する直売施設や道の駅が多くなっていますし、無人直売所もあります。ドライブ途中にこれらの施設に立ち寄って、手頃な果物をお土産に買ってはいかがでしょうか。

さらに、最近では通信販売やインターネット販売も、旬の果物を農家から直接果物を買う手段として広がっています。旬の時期と産地については、裏面の「フルーツマップ」、「フルーツカレンダー」を参考にしてください。



直売施設



無人直売所

3. 東海の果物をめぐる新たな取組

(1) 子供たちに知ってもらう「教育ファーム」

教育ファームとは、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動を知ってもらうために、地域一体となって、子供たちに体験学習の機会を提供する取組です。

愛知県安城市では小学生を対象としたナシの観察、収穫やジャム加工体験、三重県津市でもミカン、ブドウ、ナシなどの袋かけ、摘果、収穫といった栽培体験を行っています。このような体験を経て子供たちから家族へ、そして未来の社会へと果物の魅力が伝わっていくことが期待されます。

(2) 耕作放棄地とブルーベリー生産

風味と甘酸っぱさが人気のブルーベリー。国内での生産量は多くなく、需要を輸入品に頼っている状況ですが、おいしい国産ブルーベリーを作りたいという意欲的な取組も各地で見られるようになってきました。

そんな地域の1つ愛知県豊田市稲武町では、高齢化等により中山間地農業の悩みとなっている耕作放棄地の拡大を防ぐ目的もあり、ブルーベリー生産が盛んになりつつあります。中には観光農園もあり、収穫期の夏場には多くの方が訪れています。



(3) 「農商工連携」の超特選栗生産

岐阜県東濃地域では、伝統の和菓子「栗きんとん」が人気を得て、秋の風物詩となっています。地元の新鮮なクリを使用したお菓子屋さん、安定的にクリを取引してもらいたい産地の意向が合致して、厳密な基準を守って作る「超特選栗」が、市場価格の2倍程度で契約取引されています。農業の枠を超えた地域の連携事例として、「農商工連携88選」にも選ばれました。

(4) 原油価格高騰と省エネ生産技術

蒲郡市などでは、ハウスみかんの生産も盛んです。冬場に栽培施設内を加温することによって、みかんの収穫期を春から夏へと前進させています。これまで施設の加温の際の燃料には主に重油を用いてきました。

しかし、ここ数年の急激な原油価格の高騰により、みかん生産に必要な経費が増大してしまいました。そこで、被覆資材を多重化したり、ヒートポンプ(電力を動力とする加温機)や排熱回収装置(暖房機から出る余熱をもう一度加温に使う装置)を導入し、経費削減、省エネ実現に取り組んでいます。

(5) みかん生産に導入される2つのハイテク技術「マルドリ方式」「フィールドサーバー」

みかんの実は、葉でつくられる糖分と根から吸い上げる水分を貯えて少しずつ大きくなります。露地栽培では、土壌中の水分量は雨の影響を受けますが、安定的に甘くておいしいみかんを作るための技術として「マルドリ方式」が導入されています。それは、「マルチ」というシートを地面に敷くことによって、雨水が土壌に流れ込むのを防ぐ一方で、「点滴(ドリップ)チューブ」から計画的に水を与える方式です。みかんに与える水の量は「フィールドサーバー」に搭載されている土壌水分センサーのデータを基に決めます。この2つの技術の組み合わせは三重県の南紀地区で試験的に導入されています。



排熱回収装置



多重化した被覆資材



フィールドサーバー



みかん園の白いマルチ

4. 東海3県が全国に誇る果物(農業産出額ランキングより)

(1) イチジク

産地マップで示した、市町村別ランキング(平成18年)では、ベスト10の中に、安城市(2位)、碧南市(4位)、常滑市(8位)、御津町(10位)の4市町が入っているほか、ベスト100では東海3県で30もの市町が占めています。

都道府県別では、愛知県が全国1位になっています。

(2) ギンナン

イチヨウの「果実」のギンナンも東海3県で多く作られています。稲沢市が全国1位のほか、一宮市(3位)、羽島市(5位)などベスト100には、23の市町が入り、愛知県が全国1位です。

(3) カキ

県別ランキングでは岐阜県が3位、愛知県が7位に入っています。カキは和歌や俳句にもたびたび登場する日本で古くから栽培されている果物です。秋になると庭木の柿が鮮やかに輝いているのを見かける方もいるのではないのでしょうか。

また、カキには地域特有の品種が多く、岐阜県の堂上蜂屋柿(どうじょうはちやがき)、伊自良大実柿(いじらおおみがき)、南飛騨富士柿(みなみひだふじがき)、愛知県の筆柿(ふでがき)、三重県の蓮台寺柿(れんだいじがき)があります。

一般流通している品種の生産も盛んで、日本で最も多く栽培されている富有柿(ふゆうがき)は岐阜県が1位。次郎柿の生産では、愛知県が1位です。

(4) その他

県別ランキングのベスト10を見ると、岐阜県がリンゴで10位、クリで4位、愛知県はミカンで7位、ブドウで6位、モモで8位、イヨカンで8位、ポンカンで10位、三重県はウメで9位、デコポンで10位、夏ミカンで4位と様々な品目が挙がってきます。



収穫期のイチジク



伊自良大実柿(連柿)



筆柿



蓮台寺柿